



35号

題字 六中小
4年 山北信之

岡崎市現職教育委員会 特殊教育部会

平成8年12月9日発行



メダカ、元気ですか

常磐南小学校長

加藤 一彦

「校長先生、メダカ、元気ですか。」

「元気だよ、ちよつと見てみる。」

こんな会話が、月に二、三回交わされます。相手は、三年生のT君です。彼が一年生の時、学校の近くの田から校長室の水槽にやってきたメダカたちです。きっと愛着を感じるのでしょう。気持ちよさそうに泳ぐメダカたちを、しばらくの間じっと見つめ、やがて澄んだ目で振り返ります。

「ちよつと大きくなったみたい。」

「そりゃそうだよ。先生が毎日、ちゃんとえさをやっているからね。」

「えさ、忘れないでよ。メダカがかわいそうだから。」

「大丈夫、任せといて。」

「じゃあ、またね。」

生き物に対する子どもたちの気持ちは、純真です。うさぎにも小鳥にも、同じような愛情を注ぎます。小さいもの、弱いものをいたわる優しさが、言葉の端々、行動の一つ一つからうかがえます。

子どもたちが本来持っている優しさや思いやりの心を、我々教師が大切に育んでいけば、いじめも不登校もなくなるはず。いつでも、どこでも、子どもたち一人一人の目の輝きを見落とさない教師でありたいと思う毎日です。

子どもと親の集い



うんどうかい

第 14 回



九月十三日に「第十四回子どもと親の集い運動会」が岡崎市中央総合体育館で行われました。市内の小中学校の子どもたちとおうちの方、先生などが全員顔をそろえる大きな行事です。

どの子ども楽しんで参加できる運動会を目指して、毎年どんな演技にしようかと、先生たちは知恵を絞っています。夏休みには、子どもたちの喜ぶ表情を思い浮かべながらみんなで大道具を作ります。

今年、小中学校の交流を考え、小学校低学年の「よういドンでりんごがり」の「りんご」を中学生が心を込めて作りました。そのおかげで低学年の子は、おもしろい手作り「りんご」めがけて一生懸命走り、おみやげに持って帰りました。この日の一家団らんの会話も広がったのではないかと思います。「りんご」を持ち帰った低学年のおうちの方からこんな手紙をいただきました。「ごほうびの「りんご」は手作りで、あつたかみがありました。中学生の皆さん、ご苦労様。ありがとう。」と。一

つ「りんご」から温かい心の中が生まれました。中学生の演技もすばらしかったです。「ハンバーガーの鉄人」では、子どもたちはハンバーガー屋さんの帽子をかぶり、大きな五百円玉を持ってお店に行きました。

パン、ハンバーガー、レタス、ドリンクなどの材料を一つずつグルーピングに買いました。みんなで力を合わせて、とうとうおもしろい大きなハンバーガーができました。中学生やおうちの方が、大きなハンバーガーなどを運んでいる姿は迫力があり、見ていた子どもたちは声援を送っていました。力いっぱい演技し

プロゲラム

- 1、いち、にのさんぽ (全員) き上がりしました。中
- 2、ごろごろ大玉おくり (全員) 学生やおうちの方が、
- 3、タツタカかけっこ (小高) 大きなハンバーガーな
- 4、ハンバーガーの鉄人 (中親) どを運んでいる姿は
- 5、よういドンでりんごがり (小高) 迫力があり、見てい
- *おべんとう*
- 6、波のりたんけんたい (中) た子どもたちは声援
- 7、海の友だちこんにちば (小親) を送っていました。
- 8、徒競走 (中) 力いっぱい演技し
- 9、おやこで白くま (全員)

どんな事するのか？不安いっぱい。でも、楽しみがその倍以上なのは、先生方企画に当たられた方のアイデアとやさしい気持ちのおかげだと思います。泣いたら困る、奇声をあげたらどうしよう、そんな事少しも気にしないで、親も一緒に楽しめる運動会。担任の先生に言われた事を思い出しました。「特殊クラスは、特別な子が来る所じゃなくて、特別な事が出来るクラスなんですよ。」と。感動した一日でした。

運動会が盛り上がりました。だじぶんから、たのしみになっていました。かけ、こでゴールしたら、さんハしょの紙をもらいました。「ちよつとあか、たなみ」と思いました。海の子どもさんには、おみやげ、おべんとうがおいしくて、もりもりかかいてきました。おわりに代表として、ういよ、をもらいました。ドキドキしたばい、ごまぐれれました。

子どもの声
大南小 鈴木 悠

おうちの声

六南小 市川 よしの



波のりたんけんたい



よういドンでりんごがり



ハンバーガーの鉄人

ホームワーク板屋の 歩みと望み

ホームワーク板屋

代表 永井 芳枝

十一年前、知的障害児を持つ母

親四名が、子供のために何かを始めようと、一人のボランティアの先生を中心に、不吹町で生活教室を開きました。その後二年、三年と年月を重ねていくうちに、会員数も増えてきました。母親たちが集まると話題はいつも子供の将来の事でした。親亡き後子供が幸せに暮らせるには、地域で仲間たちと生活の場と働く場をもつことである、というのが皆さんの意見でした。

がんばっています(7)

ホームワーク板屋

永井エツ子さん

十月十二日に板屋の皆で、ボーリングとカラオケに出かけました。私はギターが多かったです。来年もがんばりたいと思います。

空部屋ができました。活動拠点を板屋へ移し、将来はここへ子供たちが仲間と一緒に暮らせるグループホームをつくらうと、会員一同が資金作りのために今まで以上に内職に力を入れるようになりました。

平成四年頃から景気が悪くなり、会社勤めの子供さんが会社をやめ(やめさせられ)在宅になってきました。『在宅にしてはいけない。』『子供たちに働く場所を』。そんな思いから平成六年より作業所をつくることになりました。現在六名の子供が通ってきています。板屋町で活動していますので、板屋町の皆さんにご理解をいただくため、地域交流を深めていく必要があります。地域交流会としてバザーを行ったり、お年寄りとの交遊会

私はホームワーク板屋で軍手のミシンがけとくつ下のふくろづめの仕事をやっています。

仕事はメンバーが各々の役割を受け持ち、お母さんやボランティアの人も手助けしてくれまます。手ぶくろを作る。たくさん良いすると、たくさんお給料がもらえ

をもったり、生バンド伴奏で地域のひとと一緒に歌ったりします。域のひとと一緒に催し物を行わせていただくことで、少しでも子供のことやホームワーク板屋のことを理解していただき、ご協力いただくことができるのではないかと、思います。

子供たちも訴えております。○私も働きたい ○無用でなく有用でありたい ○みんなと暮らしたい ○楽しく生きたい この願いを少しでも叶えてやりたいと思います。

親として当然のことをやっているだけですが、一歩一歩でよいから理想に近づいていけるように、会員全員が力を合わせて頑張りたいと思います。



岡崎小 6年 新海翔吾(ライオン)

ライオンズクラブ招待 社会見学会

東山動物園

十月二十三日、岡崎ライオンズクラブの招待で、百十一名の小学生が東山動物園に行きました。今年はおみやげの双眼鏡を行使のバスの中でいただきました。東山スカイタワーからのながめやコアラなどの動物を双眼鏡で見、「わあ、大きいね。」の声があちらこちらから聞かれました。他の学校の友達や先生にも会い、一緒に動物を見たり、お弁当を食べたりしている姿も見られ、ふれあうこともできました。毎年、この社会見学会を子どもたちはとても楽しみにしています。

学級スナツラ 六人の仲間たち

竜南中 九組

今年、一年生が三名入籍してきた、生徒数が六名になり、さびやかなクラスになりました。

六人という小さな社会ができたことで、一緒に活動する中で友だちを意識したり、友だちを思いやりたりする気持ちが育ち、仲良く活動することをお互いが考えられるようになってきました。

みんなでトランプやゲームをして遊んだり、バスケットボールの試合をしたりして楽しく活動することもできるようになりました。今は、協力学級の友だちと楽しく活動する計画を立てています。



自立への援助

高崎 嘉之



このたび「かいほつ」への寄稿

の依頼をいただきました。いへん恐縮しております。私は中学校で十三年間特殊教育に携わりました。もともと、特殊教育についての専門的知識のない者ですから指導のうえで戸惑いも多々ありました。お陰で職場、現職教育で出会った先生方に支えられ、充実した十三年間でした。特殊学級を担当してとてよかったです。私が出会った子どもの多くは、知的に障害をもっていました。みんな物を作ることが好きで、明るく活動的で素直な子どもたちでした。手書きの「社会見学のしおり」や「しんぶん」づくりでの新鮮なアイデアにいつも感心していました。ときにはいさかいかうこともありましたが、いさかいかにはユーモアがありました。

ところで、一番苦心したことは自立への援助でした。ややもすると、障害をもっているということと自立を妨げ、甘えの環境を作ってしまうことです。まず、自由な環境のもとで主体的に「どう生きるか」「何をしたいか」「そのためにどんな努力をしたらよいか」を常に問いました。何事も自分で決めさせることを原則にしました。押し付けては自立につながりません。自己決定の乏しい子どもには「どんな学習をしたいか」「何をしたいか」「好きな食べ物は」と、子どもの意思を根気よく問い、自己選択の幅を広げました。そして、情報の提供に配慮しました。情報の提供と子どもの意思を問うことで、自己決定の能力を徐々に高めることはできましたが、それを進路に結びつけることは難しいです。さいわい、全員の子どもは、就職に、進学へとそれぞれ巣立ちました。その道が彼らにとってべ

ストかどうかは、今も気にかかるところですが、不況の風は、幾人かの子どもを働けぬ場所を奪ってしまいました。心の痛むできごとでした。いつか「知的障害者自立援助の館」の館長さんが、人のしあわせの条件は「愛」と「仕事」である、といわれました。また、人権やプライバシーのことについても聞き



ました。私は知的障害児の援助の今日的課題がこちらにあると思います。知的に障害のある子どもは、障害の特性上、自立生活を実現させる活動を自ら起こすことの困難さはありますが、人としての尊厳、可能な限り正常で充実した

人生を送る権利を、私たちが守らなければならぬのです。これが知的障害児に対する自立への保障の意味と考えます。障害のある子どもへの援助は、ひとり学校教育にとどまらず、一人の人間としての生き方に視点を置き、その生き方も見守るというトータルな援助

があると思います。

教材ポケット パソコン

パソコンを使った授業 矢作中 山口博正



「国語、算数用ソフト」主にパソコン通信でフリーソフト(著作権フリー)として出回っているものを使っている。漢字の読み方、ローマ字練習や四則計算練習ソフトがある。普段の学習では、飽きっぽく学習に集中できない子どもでも、パソコンを使った授業では一生懸命に取り組むことが多い。特に学習効果の高いソフトとしては、福岡県のあるパソコン研究サークルの作った



「かけ算レース」、「わり算レース」で、ゲーム感覚で楽しみながら計算練習ができるソフトである。なかなか九九が言えなかった子どもでも、これで学習したら九九が間違えずに言えるようになった。「タウンズペイント」これは絵描きソフトで、これを利用してクリスマスカード、年賀状やカレンダーを作った。普段絵がうまく描けない子どもでも、パソコンでは興味をもって取り組み、いろんな絵が描けるようになった。また、美術の時間では絵を描くことが嫌だった子が、パソコンでは積極的に絵を描くように先生に見せてくれた。このように生徒の想像力を伸ばすのに大いに役立っているようだ。